

平成28年度 えびの市立上江小中学校中学部「学校運営協議会評価書」

【学校教育目標】 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成 ～ 主体性・自律心・向上心にあふれた心身共に健康な上江っ子 ～			
【めざす児童生徒像】 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子			
項目	手段・ゴールイメージ	学校の自己評価（成果・課題）	改善策
学力の向上	① 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、個に応じた指導方法の工夫改善を図る。（Web学習単元評価システムの活用、習熟度別指導等） ② 系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図る。（小中教師による乗り入れ授業等） ③ 9年間を見通した学習指導・家庭学習の定着を図る。（学習用具、2分前行動、1分前着席等） ④ 系統的なキャリア教育の推進・充実を図る。	①（設問1）個に応じた指導は概ねできてはいる。今後も、各種テストの分析を基に、学力向上に向けて積極的に取り組んでいきたい。 ②（設問3）教育課程において小中学部の教務主任が連絡を取り合い、その充実が図れた。また、授業では小学校の既習内容をしっかり確認して授業準備を行った。 ③（設問2・4・5）学習指導に関しては概ね良好ではある。家庭学習についての取組は事後指導を含め充実していた。 ④（設問6）進路通信など全保護者へ進路に関する情報提供を行った。	③ 平成29年度を見据えて、小中学校9年間を見通した一貫校ならではの基準や取組を検討したい。
豊かな心の育成	① 元気なあいさつを基本に言語環境の整備を図る。 ② 小中一貫した指導により基本的な生活習慣の定着を図る。（西諸っ子10の約束） ③ 読書活動の充実を図る。 ④ 防災・安全教育の徹底及び危険予知能力の育成を図る。	①（設問7・8）「美しいあいさつ日本一」を目指し、あいさつ運動など生徒会を中心に充実した取組が行われた。また、校内での言語環境については課題の確認をする必要がある。 ②（設問9）教師・生徒・保護者とも、共通の基準で生徒指導に取り組んでいると感じている割合は高かったことは、普段の指導の成果と言える。 ③（設問11）読書活動の充実が本校の一番の課題と言える。これまでも様々な取組を企画し実践してきたが、その成果が十分には表れていなかった。 ④（設問12）避難訓練や交通安全教室、不審者対応教室など、外部指導者を積極的に活用して指導を行った。	① 生徒と生徒、教師と生徒などもう一度、言語環境を振り返り、課題を確認して取り組んでいかなければならない。また、職員のコンプライアンス意識を高める校内研修等に取り組むたい。 ③ これまでの読書指導を検証し、積極的に改善を図り、粘り強く取り組んでいきたい。
体力の向上	① 小中一貫した体力向上プラン等を基本に、体力づくりの推進を図る。 ② 立腰指導の充実を図り、正しい姿勢の定着を図る。 ③ 給食指導や「弁当の日」等を通して、食への関心、食事マナーや自己管理能力の育成を図る。	①（設問13）部活動は顧問、生徒、後援会が協力し取り組み、充実した活動ができた。各部とも県レベルでの活躍が目立った。 ②（設問14）立腰については教師・生徒の評価ともまだ十分には取り組めていないとの結果となった。 ③（設問15）年間2回の「弁当の日」の実施、地域の方を招いての調理教室の実施などに取り組んだ。	② 立腰は普段からの意識づけが大切である。生徒と教師が課題であると意識している時こそが改善を図る時であり、来年度は積極的に改善を図っていきたい。
地域に貢献する人材の育成	① 「えびの学」の充実を図り、地域のよさを理解するとともに地域への関心を高める。 ② 学校支援地域本部事業等の活用を図り、地域の人材・素材を生かした教育活動の充実を図る。 ③ 学校運営協議会や学校評価及び地域への積極的な情報提供により、地域と連携した教育活動を推進する。	①（設問16）「えびの学」で、米作り体験・地域の方々との交流・森林教室などの取組の充実を図ったが、保護者への発信・連絡が十分とは言えなかった。 ②（設問17・18）学校運営協議会の実施、学校評価の回収率100%、HPの随時更新、学級だよりの発行などの情報提供を行った。	① 学校での取組を保護者や地域へ積極的に発信・連絡していきたい。